

# BI開発プロトタイプレビューにおける メトリクス可視化手法の提案

NECソフト株式会社

大門 未直

daimon-misugu@mxg.nes.nec.co.jp

## 開発における問題点

BI開発 (BusinessIntelligence領域のSI) プロジェクトの上工程では、プロトタイプを用いたレビューをエンドユーザと実施していることが多くみられる。本レビュープロセスは後の開発工程の品質を左右する重要プロセスであるが、開発現場において、データに基づくレビュープロセスの妥当性確認を実施しているケースは稀である。

## 手法・ツールの提案による解決

BI開発のプロトタイプレビュープロセスにおいて採取する各種メトリクスを可視化し、レビュープロセスの妥当性確認を行うことに活用できないかを考えた。

## メトリクスの可視化対象と目的

・対象: BI開発の上工程で実施されるプロトタイプレビュープロセス。



・管理項目  
以下の3つのメトリクスを管理項目として定め、データを可視化する。

- ①機能数当たりのレビュー時間
- ②機能数当たりの指摘事項数
- ③レビュー時間当たりのバグ数

## メトリクスの可視化手法

### ①ゾーン分析



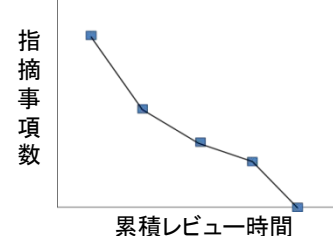
- ・プロトタイプレビュー完了時点に作成
- ・①～⑨のどのエリアにメトリクスがプロットされた？
- ⇒⑤, ⑥: 問題なしと判断

### ②プロトタイプレビュー回毎のゾーン分析チャート



- ・プロトタイプレビューの各回毎に作成
- ・メトリクスがプロットされる位置が、どの方向に変動するか？
- ⇒①→④, ②→④: 良いレビュー

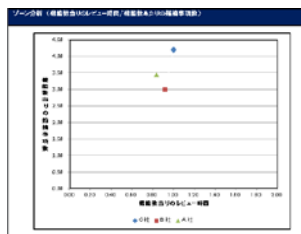
### ③バーダウンチャート



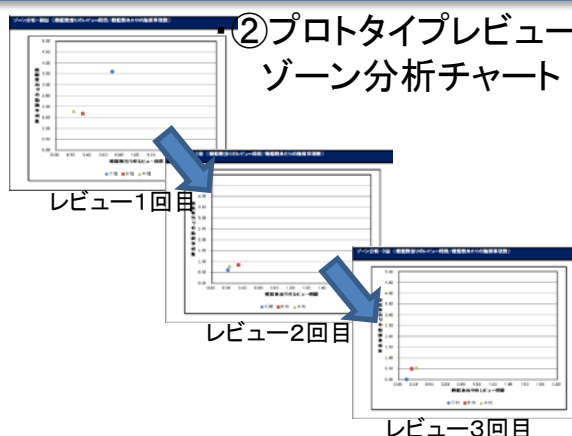
- ・プロトタイプレビューの各回毎、完了時に作成
- ・プロトタイプレビューの時間の経過とともに、指摘事項数が確実に収束していることを分析する。

## プロジェクトデータに可視化手法を適用

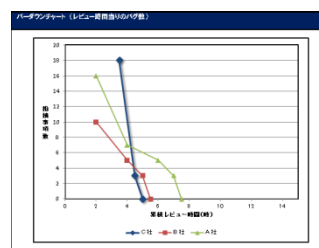
### ①ゾーン分析



### ②プロトタイプレビュー回毎のゾーン分析チャート



### ③バーダウンチャート



## 課題

- ①可視化手法導入のハードルを下げるために、メトリクス自動採取の仕組みを構築することを検討する。
- ②可視化手法の適用事例を増やし、データの傾向分析を・品質指標の立案を実施する。